

戦禍の広がり と 日本の使命

ロシアによるウクライナ侵略

2022年4月21日、プーチンは突如ウクライナ全土占領を目指して大軍を侵攻させました。2014年にウクライナに西側よりの政権が誕生。ロシアは直ちに東部2州の一部とクリミア半島を略取。8年にわたる内戦を全面戦争に導いたのです。

ロシアは専制 (autocracy) 独裁国家。私たち「西側」の民主制 (democracy) 国家とは相容れない価値に縛られています。

私の長年のロシア友人カイリス博士は、プーチンに何度も会っていますが、「妄想性人格障害」であると断じています。かつてのロシア帝国やソ連が有した広大な版図の復活を妄想する誇大妄想狂なのです。こんな人物が何千もの核ミサイルの発射ボタンを握っていると思うとゾッとします。

徹底抗戦するウクライナ

侵略されたウクライナは、首都陥落の危機に瀕しましたが、自由・人権・民主主義を奉じる NATO 西側諸国の支援と、何より「祖国を守る」気概で、ロシア軍を撃破。南部マリウポリでは「玉砕」を覚悟して闘っています。家族・郷里そして国を守る時、士気は高まるものです。

今回の戦争の「義」は明らかにウクライナにあり、私たち自由世界は民主的価値と領土を守り抜いて欲しいと念じながら応援と支援を続けています。

虐殺(genocide)と戦争犯罪

ロシア軍の撤退した跡に、徹底的に破壊された街とおびただしい数の虐殺遺体が見つかり、世界を震撼とさせています。

思い起こせば、我が国が「終戦」した前後、不可侵条約を踏みにじったソ連は、満州・朝鮮・北方領土を一気に蹂躪。その際、逃げ惑う婦女子を陵辱し虐殺。さらに60万名もの日本人をシベリアに拉致して抑留しました。ロシア軍は「人道に対する罪」を平気で犯すことで悪名高いのです。かつて何世紀かに渡ってモンゴルに支配されてから(タタールの軛)、ロシア人は残忍な行為を身につけたともされますが、野蛮国と見なされても仕方のない鬼畜の所業です。

不法侵入・器物損壊・強盗・傷害・殺人等々。戦争は文字通り犯罪のオンパレードですが、加害国と被害国は明確にされるべきです。「正当防衛(self defence)」は「自衛」として文明が容認するところです。陸戦法規・平和と人道に対する罪。プーチンおよび加害したロシア将兵は「戦争犯罪」で指弾されねばなりません。

ロシア・中共・北朝鮮の極東での不穏な動き

ウクライナ侵略を契機に、ロシアは日本海・北方領土で「演習」、中共・北朝鮮も追従しています。ユーラシア大陸を横切って、戦火の恐れが東アジアにもキナ臭く漂い始めています。専制と民主制の「冷戦」、その構図が固まりつつあるのです。今回のウクライナ侵略がいつどのように停戦できるのか、まだ余談を許しません。が、極東で侵略戦争が始まるとすれば、文字通り「第三次世界大戦」勃発さえ懸念される状況です。

共業(ぐうごう collective karma)としての国家と戦争

個々人にも悪業がありますが、組織・企業そして国家となると、その行為は「業の塊」となります。いま目前しつつある戦争は、その最悪の業(カルマ)の発揮です。

個々人に良心はあっても、組織に固められると、唯々諾々として命令に隷属してしまう。そうした人間の「悪の凡庸性 Evil of banality」が戦争という人類最悪の愚行を導き、この世に「横死(殺される死)」地獄を産み出すのです。

いま日本人がなすべきこと

1. 世界という「現実」を直視すること
2. 早急に軍事的に自立して十分自衛できるようになること
3. 全員の生命・財産・尊厳が厳守される文明(仏陀 AIR 文明)を目指すこと

80年近い平和を謳歌できて来た日本。

世界が戦禍に覆われんとしている今こそ、御花畑から目覚め、平和の有り難さの真髓を見つめ、毅然と現実に対処し、世界の大きな希望となること。それが日本・日本人の使命であると信じます。